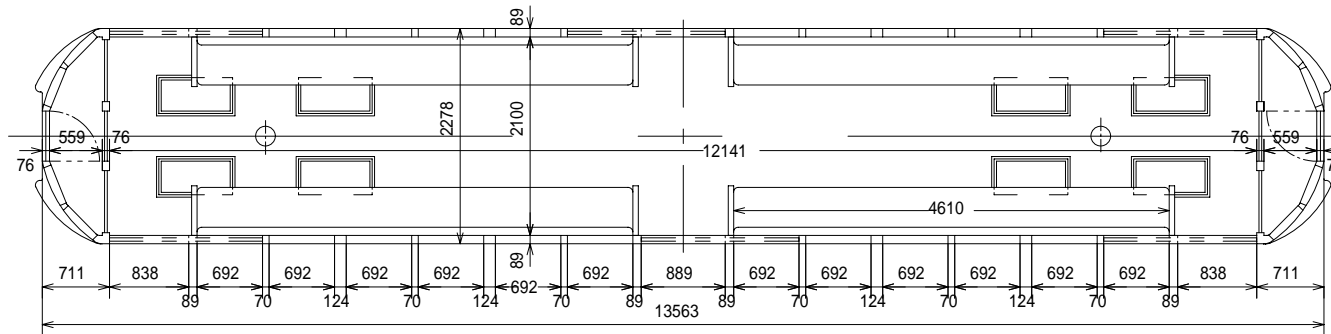
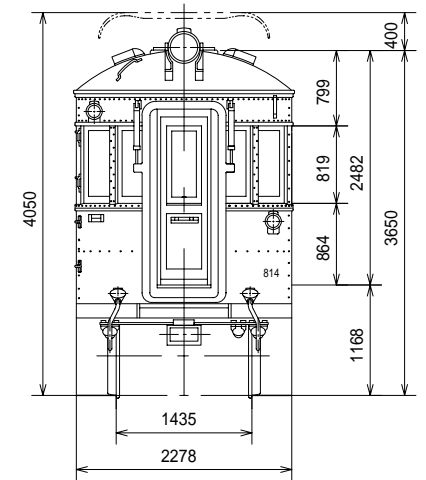
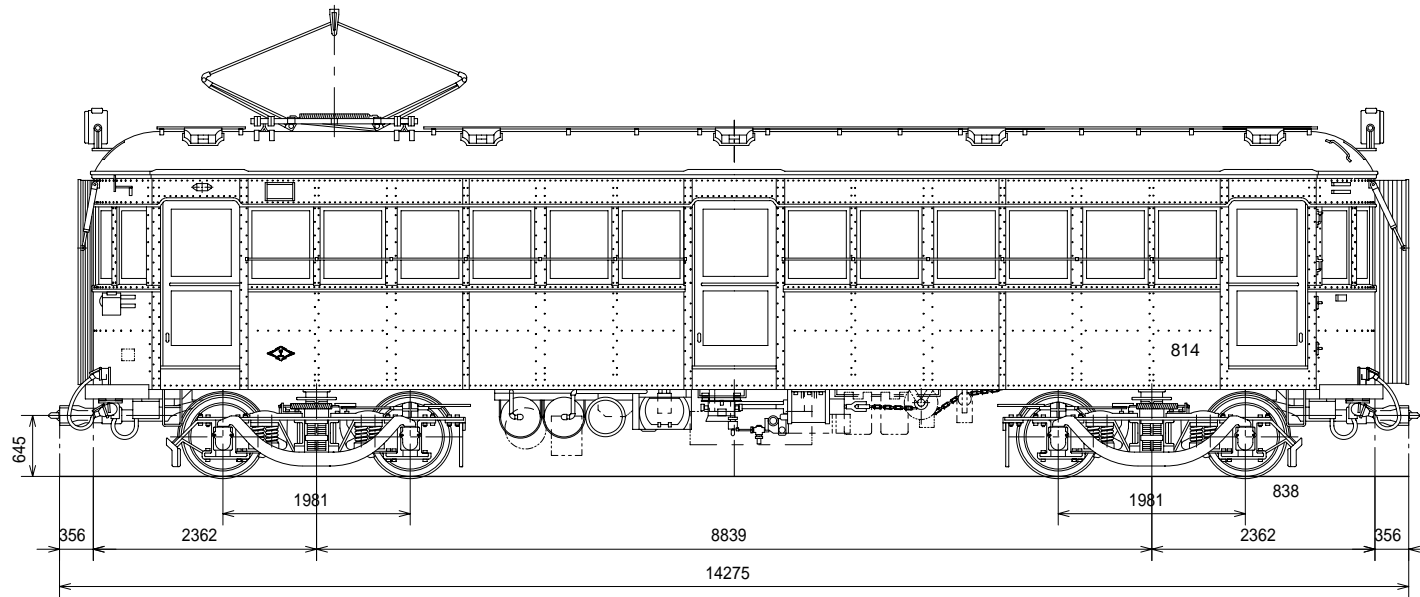


# 阪神電鉄 814型 形式図



1926年、401型として急行用に就役した車両

当初はポール集電で、フェンダーをそなえ、木造車のスタイルをそのまま受け継いだものであったが、やがてパンタや貫通幌を取り付けて一種独特のムードを持つようになり、阪神タイプという特徴ある姿でファンに知られた

同系831型や2扉車851型なども加わり、この幅の狭い小型車のグループは長年にわたって阪神の主力としてオール電動車編成で活躍した

図は1957年当時、半円に近いカーブを画いた前面など、まだ往年の面影をかなり残していた中の 814である

すでに大型新車登場後のためステップやその表示灯をつけていたが、記載を省略した

台車はボールドウィン78-25-AA